


## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	武田 良祝 
所属機関	順天堂大学 大学院医学研究科 肝・胆・膵外科
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	Digestive Disease Week (米国消化器病週間) 2018 The Society for Surgery of the Alimentary Tract (米国消化器外科学会) 59 <sup>th</sup> Annual Meeting
渡航期間	自 平成 30 年 6 月 1 日 至 平成 30 年 6 月 5 日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	ポスター発表 The chance of cure for patients with colorectal liver metastasis: lessons learned from the outcomes with aggressive surgical management in the pre-modern chemotherapy era.
研究成果 ( 要約 : 800 字 )	
<p>Digestive Disease Week 2018 で上記研究内容を発表した。主な内容は、積極的な外科的切除により約 36%の大腸癌肝転移患者が治癒にいたっており、これは従来の報告の約 2 倍であるというものである。積極的な外科切除の特徴は主に①肝転移再発に対する再肝切除を積極的に施行していること、②肝外転移を有している患者にも根治が可能と考えられれば切除を行うという 2 点である。このうち特に①が高い治癒率に貢献していると考えられた。本研究は近代的な全身化学療法が世界的に広く標準化される前のデータであり、外科切除単独での治療効果を計ることができるとともに、最近の化学療法との併用により今後治癒率が向上するかを評価するための指標ともなる研究である。</p> <p>本報告での高い治癒率は聴講者からの興味を引いており、外科切除を中心とした治療戦略の有用性を改めて示すことができたと感じた。聴講者から、実際の詳細な切除適応や今後の大腸癌肝転移治療の展望についての質問を受け、関心の高さをうかがわせた。また、現代の化学療法と併用した治療戦略下での治療成績についての質問もあり、最新の化学療法との併用により切除率が向上することで、さらに高い治癒が可能になるだろうという議論を交わすことができた。</p> <p>今後本研究は論文化により、より広く世界に発信する予定である。本学会の質疑応答で得た議論をヒントにさらに深い考察を行い、早い時期に一流雑誌に投稿することを考えている。肝胆膵外科のみならず、大腸外科医や腫瘍内科医にも本研究の知見を広く知ってもらうことで、大腸癌肝転移患者により良い治療を行うことができれば幸いである。</p> <p>また、他の研究発表の聴講により、肝胆膵領域の治療成果や最新の治療指針を学ぶことができ、大変勉強となった。今後の自身の治療に影響を与えるのみならず、新たな研究の参考ともなり、大変有用であった。今後の臨床・研究活動に広く活かすことで、今回の国際学会参加をより有意義なものにしたいと考える。</p>	